えにしの会
クロストークⅡ―B（「闇」を生み出す構造・改革への道）

経済メディアが連載「精神医療を問う」で明るみに出した現実

東洋経済新報社　『週刊東洋経済』編集長
風間直樹
（naoki-kazama@toyokeizai.co.jp)

自己紹介

・1977年長野県生まれ。都立小石川高校、早稲田大学政治経済学部卒業、2001年同大大学院法学研究科修了後、東洋経済新報社に入社。

・編集局記者として、電機、金融業界担当などを経て、雇用労働、社会保障問題等を取材。

・2014年8月から2017年1月まで、朝日新聞記者（特別報道部、経済部）。

・東洋経済に復帰後は、「週刊東洋経済」副編集長、調査報道部長を経て、2022年4月より現職。

「週刊東洋経済」で担当した主な特集

月間3億PVを突破した東洋経済オンライン

Press Release

TOYO KEIZAI INC., since1895
東洋経済新報社
〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町 1-2-1 https://toyokeizai.net/

2020年6月15日

「東洋経済オンライン」の5月自社PVが3億を突破
新型コロナ特設ページ、データビジュアルなどに注目

株式会社東洋経済新報社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：駒橋憲一）が運営するビジネスニュースサイト「東洋経済オンライン」(https://toyokeizai.net/)の2020年5月の自社PV(ページビュー)が、月間3億0457万PV(Google Analytics調べ）に達し、2003年の開設以来初めて3億PVを超えるとともに、過去最高値を更新しましたことをお知らせします。
（自社PV：「東洋経済オンライン」で閲覧された値）

ユニークブラウザ（UB）は月間4956万UB（Google Analytics調べ）、ヤフーやスマートニュースなど外部配信先での閲覧を加えた総PVは月間4億9846万PVとなりました。

本連載に至る前史① 「子どもの命を守る」特集

本連載に至る前史②「大規模無低」キャンペーン

「無料低額宿泊所」とは

・生活保護受給者など生活困窮者を対象とした施設。

・全国569施設に1万7000人が入所（2018年時点）、無届施設も加えると入所者数は約3万2000人（2015年時点）。

・入居費用（生活費、住居費）などは生活保護給付から充当。

・「貧困ビジネス」の温床として社会的問題に。

前史①、②に取り組む中での偶然の出会い
―すべての始まりは閉鎖病棟から届いた一通の手紙だった

初めまして。多摩病院に入院している米田恵子です。
私は2016年2月10日にODをして入院になりました。
入院形式は"医療保護入院"です。
この3年5ヶ月間 精神薬を一切のんでいません。
なのに面会、Tel は弁護士だけで、私の家族も
3年間以上面会、Tel、退院を求めてますが、病院
は色々言い訳をして出せてくれません。
それで私は昨年 弁護士さんを頼りました。
そして今年4月に退院請求をして 21人中の1人になれす
今にいたります。

〒192-0015
八王子市中野町2082
多摩病院 緑4病棟 米田恵子

連載「精神医療を問う」を開始

政治・経済 ▸ 精神医療を問う

精神病院に4年閉じ込められた彼女の壮絶体験

「入院は社会的制裁、市役所も児相も同意」

次ページ »

風間 直樹：東洋経済 調査報道部長 ／ 井艸 恵美：東洋経済 記者　2020/01/28 5:30

シェア 2635　ツイート　一覧　B! 218　印刷

「無低」とは比較にならない衝撃的な「収容者」数

- 精神疾患により医療機関にかかっている患者数は日本中で400万人を超えている。
- そして精神病床への入院患者数は約28万人、精神病床は約34万床あり、世界の5分の1を占めるとされる（数字は2017年時点）。
- 人口当たりで見ても世界でダントツに多いことを背景として、現場では長期入院や身体拘束など人権上の問題が山積している。本連載では日本の精神医療の抱える現実をレポートしていく。

生活保護費の5割超が大きな「原資」に

- 2020（令和2）年度のデータをみてみると、
- 生活保護費は3兆7000億円
- その約5割を超える1兆8000億円が医療扶助費、生活扶助費は3割弱の1兆1000億円弱、住宅扶助費が6000億円となっている。

（高橋紘士「アサイラム型民間精神科病院の宿痾」より）

連載の3本柱は「医療保護入院」、「身体拘束」と「薬漬け」

最終回は「あの」報徳会宇都宮病院の今

政治・経済 ▸ 精神医療を問う

報徳会宇都宮病院に今も君臨する95歳社主の正体
精神医療史に残る不祥事経てもなお最前線に立つ

次ページ »

風間 直樹：東洋経済 調査報道部長　2021/07/14 6:00

報徳会宇都宮病院の本館。全体で653床の病床を持つ精神科病院だ（記者撮影）

精神疾患により医療機関にかかっている患者数は日本中で400万人を超えている。そして精神病床への入院患者数は約28万人、精神病床は約34万床あり、世界の5分の1を占めるとされる（数字は2017年時点）。人口当たりで見ても世界でダントツに多いことを背景として、現場では長期入院や身体拘束など人権上の問題が山積している。日本の精神医療の抱える現実をレポートする連載の最終第13回前編。

「気持ちが落ち着くまで、ちょっと入院しませんか」

政治・経済 ▸ 精神医療を問う

報徳会宇都宮病院の「入院治療」あまりに驚く実態
各種専門家から厳しい指摘、山のようなクレーム

次ページ »

風間 直樹：東洋経済 調査報道部長　2021/07/16 5:20

記者会見する元宇都宮市精神科嘱託医の朝倉泰昌医師（左から2人目、記者撮影）

精神疾患により医療機関にかかっている患者数は日本中で400万人を超えている。そして精神病床への入院患者数は約28万人、精神病床は約34万床あり、世界の5分の1を占めるとされる（数字は2017年時点）。人口当たりで見ても世界でダントツに多いことを背景として、現場では長期入院や身体拘束など人権上の問題が山積している。日本の精神医療の抱える現実をレポートする連載の最終第13回中編。

第13回前編：「報徳会宇都宮病院に今も君臨する95歳社主の正体」（7月14日配信）

政治・経済 ▸ 精神医療を問う

「社会守る」精神病院で人権侵害が続発する大矛盾
日本は認知症の強制入院を是とする国でいいのか

次ページ »

風間 直樹：東洋経済 調査報道部長　2021/09/21 11:40

遠方の報徳会宇都宮病院に運行され、強制入院させられたAさんとその妻（記者撮影）

精神疾患により医療機関にかかっている患者数は日本中で400万人を超えている。そして精神病床への入院患者数は約28万人、精神病床は約34万床あり、世界の5分の1を占めるとされる（数字は2017年時点）。人口当たりで見ても世界でダントツに多いことを背景として、現場では長期入院や身体拘束など人権上の問題が山積している。日本の精神医療の抱える現実をレポートする連載の最終第13回後編。

第13回前編：報徳会宇都宮病院に今も君臨する95歳社主の正体
第13回中編：報徳会宇都宮病院の「入院治療」あまりに驚く実態

まさに50年前の大熊一夫著『ルポ精神病棟』の世界

「構造」の改革で、広がる可能性

- OECDの人口1,000人あたりの精神病床数をみると日本は2.57で、諸外国と比べると突出して多い。これはヨーロッパとして病床数の多いドイツの1.30と同水準にすると、

- 精神科病院入院者が約27万8000人であるから、その半数の13万9000人を退院させ、月々の医療費を600,000円と仮定すると、月834億円。

- 年額にして約1兆円強の医療費となる。
  （高橋紘士「アサイラム型民間精神科病院の宿痾」より）

ところが現実は、、、急増する認知症での精神科入院

- 厚生労働省の推計によれば、２０２５年に認知症の高齢者（65歳以上）は約700万人となる。認知症予備軍にあたる軽度認知障害（MCI）まで含めると、確実に1000万人を超えるとみられ、高齢者の3人に1人となる。

- ところが認知症だと診断されたことで、突如として精神科病院への強制入院を余儀なくされるケースは決して少なくない。

- 厚生労働省の調査によれば、精神疾患を有する入院患者のうち、アルツハイマー型認知症は4.9万人（2017年）で、2002年の1.9万人から右肩上がりで増加している。

先進国の認知症ケアの潮流とは真逆

- 認知症の人を、本人の同意なく精神科病院に強制入院させ、向精神薬を投与する。場合によっては隔離や、時に死にまで至る身体拘束を行う……。こうした日本の実情は、脱施設化の進む世界の認知症ケアの潮流とは、明らかに反している。

- 現在の日本の認知症対策の国家戦略は、政府が2015年に策定した「新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）」。新オレンジプランでは再度の方針転換を余儀なくされた背景には、ある団体からの猛烈な反発があった。日本精神科病院協会（日精協）である。

認知症は精神医療で対応、と主張

- 日精協が認知症に関して、先進諸国の潮流とは真逆とも思える主張を続けるのは、いったいなぜなのか。現在も組織を率いている、日精協の山崎學会長に尋ねた。

- 「高齢化が進む中、認知症に伴うBPSD（妄想・徘徊などの周辺症状）の患者は当然増えます。そのためには一定の病床数は維持しないと駄目だと思う。認知症のBPSDというのは精神科医でなくては治療できません」

（余談ですが…）私が最も違和感を覚えた、山崎会長の見解

- 地域に出るということが、その患者さんにとって幸せだと思う？僕は患者さんにとって余計なお世話だと思う。
- 精神科病院で気の合った仲間とおしゃべりして一緒に晩ご飯を食べる生活と、独居のアパートでコンビニの冷たい晩飯を1人でテレビ見ながら食べる生活とどっちが幸せだと思う？
- しかも長期入院で社会生活の仕方もほとんどわからない人が地域に出て困惑するより、病院内の仲間と冗談言って、晩飯食べて、おやすみと寝て、病院に長期入院でいるほうが、僕は幸せな気がするけどな。僕ならそっちのほうがいいな。

  →（風間見解）私は絶対にイヤです。。。

「構造問題」として描くことに徹する

ー「文化通信」インタビューよりー

- 一人の悪い医者がいるとか、一人のかわいそうな患者がいるというレベルの話ではありません。 精神医療の取材では、本当にその医者がおかしいと言えるのか、当事者の言っていることが信用できるのかなどと言われがちです。確かに個々の問題にするとつめきれないところが出てきます。

- 大切なのは精神医療に関する制度や仕組みがおかしいと指摘することです。強制入院に関しても、警察が容疑者に同じようなことをしようと思ったら裁判所の令状が必要なのにその過程をすっ飛ばせてしまう。警察や裁判所担当の事件記者から見ても異様に映るはずです。そういう目で見れば（同業のメディアにも）関心を持ってもらえると期待しています。

本連載を大幅加筆して書籍として刊行

連載を終えて、改めて思うこと

- 日本の精神医療に最も必要なのは、外部からの指摘を積極的に受け止め、対話し、自己変革へとつなげることのはず。
- その意味で、門外漢の最たるものである経済ジャーナリズムの当媒体が、問題提起に取り組む意義はあったと考えている。